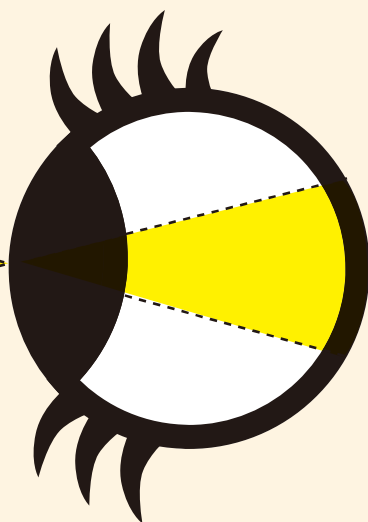


瀬戸内海歴史民俗資料館
瀬戸内ギャラリー第21回企画展

瀬戸内海、 ぶかぶか、 路上観察

路上観察学会
35年目の再訪と、
資料も気づかない景観



瀬戸内海歴史民俗資料館

2026.9.19.sat-11.23.mon

9:00～17:00(入館は16:30まで) 休館日|月曜日(ただし9/21、10/12は開館)、9/24(木)、10/13(火)

入館料|無料

主催|瀬戸内海歴史民俗資料館 共催|「わたしの路上的香川」プロジェクトチーム 学術協力|路上観察学会

路上観察

川原平(1937-2014)が語った路上観察は、日常の何気ない風景や事物に面白さを見出す実践として大きな反響を呼びました。アート、建築学、民俗学などさまざまな分野の境界を軽やかに横断するこの手法は、日本全国に広がり、今日に至っています。

本展では、この路上観察の手法や対象とする景観を取り上げ、3つの試みを行います。第一は、1991年に路上観察学会が香川県で行った調査記録『路上探検隊 讃岐路をゆく』を起点とし、35年を経た変化を路上観察の視点から考えます。

第二は、瀬戸内海歴史民俗資料館が瀬戸内各地から収集した民俗資料のふるさとの景観に注目します。当館は、瀬戸内地方の11府県の民俗資料を収集、展示しています。香川県から飛び出した目玉として、写真家の田村尚子(徳島県)、都市鑑賞者の内海慶一(岡山県)の写真を紹介します。展示室に並ぶ数々の民俗資料のふるさとを、写真を通して再び生きた土地の記憶や生活の痕跡と結び直します。

最後は、当館旧職員の高橋克夫(1918-2000)が、主に1970年代に撮影した瀬戸内の路上風景を紹介します。高橋が捉えた風景写真を再構築して展示し、かつての民俗社会における人々の暮らしや路上の役割について見つめ直します。

3つの試みを転がった私たちの「目玉」はどこに流れ着くのでしょうか!?



今から40年前、「目玉」の革命による新大陸の発見、と赤瀬

来香川！林丈二

藤森照信

入館料無料！

(1)オープニングイベント・記念講演会

日時:9月19日(土) 13:30-16:00

オープニングイベント(第1展示室)

13:30-14:20

記念講演会(研修室)

14:30-16:00

講演会講師:林丈二(路上観察学会)

演題:「面白いこと収集/分類家・林丈二の実践」

場所:瀬戸内海歴史民俗資料館(第1展示室・研修室)

定員:40名(先着順、定員になり次第終了)

電話、「香川県電子申請・届出システム」から申込

※オープニングイベントのみの参加の場合は、事前申込不要

(2)講演会「藤森照信、路上観察を語る」

日時:10月24日(土)14:00-15:30

講師:藤森照信(江戸東京博物館長、東京大学名誉教授)

定員:150名(先着順、定員になり次第終了)

場所:瀬戸内海歴史民俗資料館 第1展示室

募集:9/18(金)~

電話、「香川県電子申請・届出システム」から申込

協力:一般社団法人香川県建築士会高松支部青年部会、青年委員会

(3)品評会

「わたしたち、路上観察してみました」

日時:10月31日(土)10:00-11:30

定員:40名(先着順、定員になり次第終了)

場所:瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室

講師:「わたしの路上的香川」プロジェクトチーム、瀬戸内海歴史民俗資料館職員

募集:9/18(金)~

電話、「香川県電子申請・届出システム」から申込

(4)展示解説

日時:9月20日(日)、9月27日(日)、10月3日(土)、10月17日(土)、11月7日(土)、11月14日(土)、11月23日(月・祝)

各日 10:30-11:00 ※事前申込不要

場所:瀬戸内海歴史民俗資料館

第1展示室ほか

講師:「わたしの路上的香川」プロジェクトチーム

路上展出展アーティスト



田村尚子 NAOKO TAMURA

徳島生まれ、京都市在住。文学と映画研究、茶道の財団勤務を経て、写真を中心に映像やパフォーマンスを国内外の展覧会で発表多数。写真集に『Voice』(青幻舎2004)、現代の精神医学・思想の聖地といわれる仏のラポルド病院に長年通った写真とエッセイをまとめた、シリーズ『ケアをひらく』『ソローの森』(医学書院2012)、『タウマタ・Thaumata』(Takalshii gallery Photography Paris, 2015)、第19回ヴェネチア・ビエンナーレ建築国際展2025企画部門にて写真と立体作品「旅する茶会」で参加し、2026年秋より日本国内で始動。ヴェッター公園名義の活動として、妙喜庵待庵「土壁と柿」(竹中大工道具館+ヴェッター公園編)など古建造物関連の書籍など制作。2021年より京都建築映像祭を主催。
vutterkohen.com



内海慶一 KEIICHI UTSUMI

岡山市在住。ライター、都市鑑賞者。ビクトさん、装飾テント、シュロ、台、水路、建築、土木構造物など、身のまわりにある様々なモノ・風景を鑑賞し、写真や文章を発表している。活動テーマは「見たことあるのに見えてなかった」。著書に『ビクトさんの本』(BNN新社、2007年)、『100均フリーダム』(BNN新社、2010年)。その他、『路上と観察をめぐる表現史——考現学の「現在」』(フィルムアート社、2013年)、『街角図鑑』(三土たつお編、実業之日本社、2016年)など寄稿多数。

瀬戸内海歴史民俗資料館

Seto Inland Sea Folk History Museum

〒761-8001 高松市亀水町1412-2(五色台山上)

TEL 087-881-4707 FAX 087-881-4784

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/>

◎JR高松駅から車で約25分・JR坂田駅から車で約30分

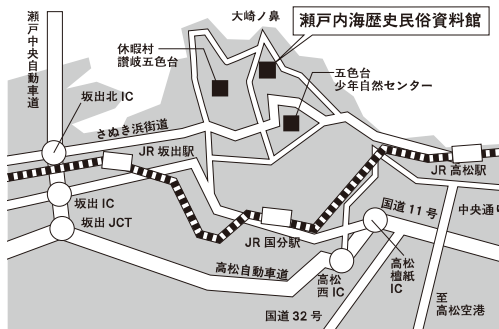
◎徳島方面から…高松自動車道榑紙ICより車で約30分

◎岡山方面から…瀬戸中央自動車道坂田北ICより車で約30分

◎愛媛・高知方面から…高松自動車道坂田北ICより車で約35分

※いずれも県道高松市越坂出線の大崎ノ鼻経由

◎駐車場:普通車30台、大型バス可



本展は科学研究費助成事業(JSPS科研費)の以下研究課題の助成を受けて実施しています。『「気づかない景観」の実践的研究:路上観察学会の手法分析と再現を通して』(課題番号:25K23512)

関連事業



DESIGN by COCHAE

